

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つどい			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ~ 令和7年4月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年4月15日 ~ 令和7年4月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月10日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・医療的ケア児および重症心身障がい児にも支援が行える体制と個々の障がい特性等に応じた対応が出来る環境	様々な特性や配慮が必要な子どもが安心して過ごせるように、施設内の構造（広さや部屋の配置）を整えている。 また、職員の配置も活動プログラムの時間帯や1日の利用者人数、利用者特性に応じて職員配置を整えている。	様々な特性を持つ子ども達に対しての支援の充実や個別療育を行うために、職員のスキルアップと専門職の配置、職員の加算配置を今後も継続して進めていく。
2	保護者に対する相談支援	保護者が日々感じている悩みや子どもの成長発達等の不安、制度などの専門的な相談などをご家族の都合に合わせて対応が出来るように間口を広げて対応をしている	保護者の様々な相談事に対応が出来るように、常に寄り添った支援を行う為の相談支援スキルと家族にスーパーバイズができるよう専門的なスキルアップが行えるような研修を取り組んでいく。
3	地域連携	学校との連携、相談支援事業との連携、他事業所（障がい児通所支援事業所等）との連携を密にとり、個々の利用者の地域内での過ごし方や支援方針などを常に共有し、必要な時に他機関等と支援体制の構築が出来るようにしている。	就学前の事業所や卒業後の事業所との連携を強化し、移行支援を本人・ご家族が困らないような引き継ぎに対して取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われるること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害のない子どもと活動する機会や交流が不足している	障害のない子どもと一緒に活動する機会が持てていない。 買い物や散歩などで地域住民と関わりはあるが、一緒に活動を行うことが出来ていない。 また、外出等する上では、職員の配置と人数が限られてしまうため、外部との関わりがとれていらない。 限られた人数に絞って交流すると活動が分散して手薄になってしまう。	月間計画や年間計画を立てて、交流を持つ機会の活動計画を立ててから、職員の必要配置などを考えていく。また、加配対応がとれるように必要な人数を雇用することとボランティア等の募集や大学への広報活動を行い、活動をサポートする人員を確保する
2	ペアレントトレーニングや集団による相談対応が不足している	個別の相談支援に関しては、個々の状況に合わせてアドバイスや相談対応を行っているが、ペアレントトレーニングや集団による相談や保護者間での交流などは行えていない	ペアレントトレーニングや連続的な講座を計画して、保護者同士が集まり情報交換が出来る場をつくっていく。